

南の躍動

奄美のよさを生かした活力ある教育の充実



船越マイクロアトール(宇検村)

第4号

平成29年10月23日
大島教育事務所

「分かる」へつなげる **授業充実の3ポイント**を！

8月末に、今年度の全国学力・学習状況調査結果が発表されましたが、大島地区の結果は次のとおりです。(網掛けは、昨年度よりも差が縮まったものです。)

※ 数字は正答率の県平均との差

小学校6年生				中学校3年生			
国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
-1	-1	-2	-1	-4	-4	-5	-4

- 小学校では、昨年度に比べると4領域ともに2ポイントずつ県平均との差が縮まった。
- 中学校では、県平均との差が更に広がった。強い危機感をもって、学力向上に取り組む必要がある。

下の表は、授業改善に関する児童生徒質問紙の設問の大島地区分を抜き出したものです。

設問 (要点のみ掲載)	H28	H29	設問 (要点のみ掲載)	H28	H29
授業では、目標(めあて・ねらい)が示されていたか	0.3	-0.8	授業では、話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか	0.6	-1.5
授業では、話し合い活動をよく行っていたか	3.5	0.8	授業では、課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思うか	-0.4	-3.5
授業では、学習内容を振り返る活動がよくあったか	2.5	2.7			

※ 数字は「よく当てはまる」と回答した子どもの割合の県平均との差

この結果から、大島地区の授業では、話し合い活動がなされている、振り返りがなされているなど、いわゆる「**授業充実の3ポイント**」を意識した授業が浸透しつつあるということが分かります。

一方で、右上の表から分かるように、日々の授業に対して「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる授業」「自分たちが主体的に関わることができる授業」という実感をあまりもてない子どもが多いということが分かります。つまり、「**授業充実の3ポイント**」を位置付けているが、効果を上げるまでに至っていないことが分かります。この傾向は、ここ数年続いています。

そこで、大島地区では先生方の授業力向上に向けて、コアティーチャーネットワークプロジェクトの先生方が中心となってモデル授業を作成し、**地区オープンサポート教科フォーラム(8/25)**で模擬授業として公開しました。その際、「主体的・対話的な深い学び」につながるように、「授業充実の3ポイント」の中でも特に「**山場の工夫**」を中心に、交流活動を充実させることで授業のねらいを達成できるような指導法を研究しました。



【理科】

自分の考えを強固・付加・修正させる交流活動の工夫



【国語科】

自由に席を移動して意見交換をする交流活動の工夫



【社会科】

聞き方のルール(同意、補足、反論)を踏まえた交流活動の工夫



【算数・数学科】

理由を書かせるワークシートを用いた交流活動の工夫



【外国語活動・英語科】

一人一人の考えを発表する小集団による交流活動の工夫

※ なお、これらの授業についてまとめたリーフレットは、後日配布する予定です。校内研修等で活用していただき、日々の授業改善に生かしてください。

これらの授業を参考にし、「話し合い活動を本時のねらいを達成させるために位置付けた授業」にするなど、「**授業充実の3ポイント**」をしっかりと踏まえ、子どもたちの「分かる」へつなげる授業づくりを進めていきましょう。

チーム対応で不登校対策を！

=大島地区不登校等対策研修会 (7/28, 8/22) =

講師に鹿児島大学大学院臨床心理学研究科の松木繁教授を迎え、不登校の未然防止、早期発見・早期対応について研修しました。奄美大島、徳之島の2会場で計125名の参加があり、前半の講話と後半のケース会議の演習で、チーム対応の在り方について学びました。

＜チーム対応で大切なこと＞

- 1 全教職員での支援方針の統一
 - ・ ケース会議での情報共有、支援計画の作成、役割分担
- 2 教育・心理・福祉的観点からのチーム構成
 - ・ (教育) 集団教育の利点の活用、ピアサポート力の活用、学力保障
 - ・ (心理) 臨床心理学的観点からの支援 (親子関係の調節、安定した自我同一性など)
 - ・ (福祉) 経済的側面からの家庭環境の調整、虐待的環境の解消など



講演の様子



ケース会議演習の様子

＜ケース会議の進め方＞

- 1 子どもの情報を共有する。
 - 2 多面的な見方で課題を明らかにする。
 - 3 長期・短期の目標を設定する。
 - 4 手立てを決める。(誰が、いつ、何をするか)
- ※ 継続的な開催で、目標と手立てを見直し、発展的なチームアプローチができるようにする。

「私もあなたも大切」を実感できる人権週間にしましょう！

人権週間が12月4日(月)～10日(日)に実施されます。教師自らの人権感覚を高め、子ども一人一人が「私もあなたも大切」を実感できるよう次の5つのポイントを参考に取り組みましょう。

「私もあなたも大切」を実感させるポイント

- **子どもの実態把握**
 - ・ 「もやもや書き」
 - ・ 「先生、あのね」等
- **人権学習の設定**
 - ・ 同和問題の解決について
 - ・ 様々な人権課題について 等
- **集会活動の実施**
 - ・ 人権作文
 - ・ リフレーミング 等
- **環境の整備**
 - ・ キラリツリー
 - ・ 人権標語の掲示 等
- **保護者との連携**
 - ・ 学校、学級だよりでの啓発 等

【取組例】

ハッピーボックス (面縄中)



友達からされてうれしかったことなど、生活の中で感じた小さな幸せを紙に書いてポストに入れます。放送で紹介し、互いのよさや自分の成長に気付くことができるようにしています。

子どもと向き合う教職員の基本姿勢「Mom(見つめる, 思いをめぐらす, 向き合う)」を大切に、チーム学校で進めていきましょう。

業務改善！できることから確実に

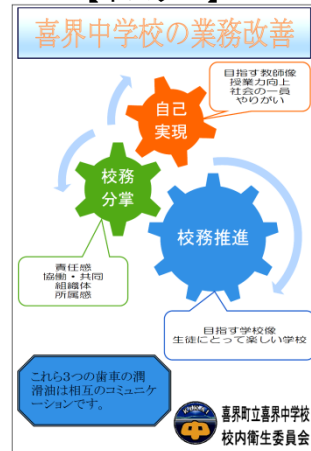
業務改善の意識啓発に向けたポスターと標語の募集に多くの力作が集まり、先生方の意識の高さを感じました。(標語127校652人、ポスター37校45人) その中から、いくつか紹介します。

【標語】

すきま時間 上手に活用 すいすい退勤
 溜め込まず 悩み打ち明け チームプレー
 整理整頓 仕事はかどる きれいな机上

奄美市立名瀬小学校
 瀬戸内町立諸純小中学校
 徳之島町立井之川中学校

【ポスター】



喜界町立喜界中学校の作品

互いに声を掛け合い、強い意識をもって改善しましょう。

シリーズ No.3

学び合い、高め合う教師集団【大和村立名音小学校/今里小学校】

2校は、年間を通して合同で研究授業と授業研究を交互に1回ずつ実施しています。

1 小小連携を意識した授業づくり

授業研究では、共通する研究の視点を基に協議することで、子ども同士の考えの練り上げ、深め合いを目指した「ガイド学習の流れ」や、ホワイトボードの使い方の課題についての具体的な改善策について、互いに話し合うことができました。



合同授業参観の様子

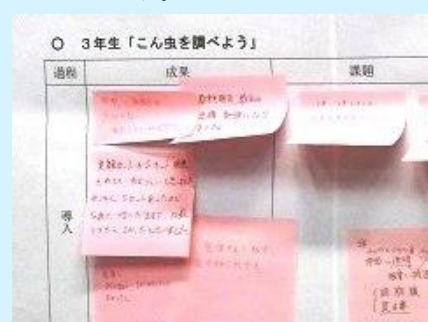


授業研究の様子

2 学び合う授業研究

授業研究では、研究授業で分担して収集した発問、板書、子どもの反応などを基に、成果や課題について発言するようにしています。その際、全員が付箋に考えを書き、紹介し合うことで、一部の職員だけでなく全員の考えが反映されるように、それぞれの取組のよさや課題を確認し合ったりするなど、有意義な話し合いになっています。

また、2校の職員は、サービスに関する研修も共同で行い、県教育委員会作成のDVDを視聴後、交通違反を起こさせないという強い決意を書いて発表し合うなど、サービス規律の厳正確保について再確認しています。



研究授業で分担して収集したもの